

雨水出水浸水想定区域図に関するQ&A集

Q1 雨水出水浸水想定区域図とは何ですか？

A1 水防法第14条の2に基づき設定した想定最大規模(短時間)降雨が発生した際、下水道を含む雨水排水施設の排水能力を上回り、雨水が排除できなくなった場合に想定される浸水区域や浸水深、浸水継続時間を示した区域です。

Q2 想定最大規模(短時間)降雨とは何ですか？

A2 1年の間に発生する確率が1回/1000年程度の降雨のことです。
本市の想定最大規模(短時間)降雨は、国土交通省が作成した設定手順に基づき、1時間雨量147mmとしています。
なお、本市の下水道の整備目標として定める計画降雨は1回/10年程度の降雨で、1時間雨量50mm程度です。

Q3 時間最大147mmの雨とはどれくらいの規模ですか？

A3 近年の大雨であった令和6年11月1日～2日(台風21号による低気圧と前線)の降雨量は1時間雨量46.5mmであったため、約3倍となります。
なお、本市の計画降雨も1時間雨量50mm程度であり、約3倍となります。

Q4 なぜ雨水出水浸水想定区域図が必要なのですか？

A4 近年、下水道等の雨水排水施設の能力を上回る大雨が全国的に増加し、浸水被害が発生しております。そのため、令和3年の水防法改正により、浸水対策を行う全ての団体で雨水出水浸水想定区域を指定することとなりました。
この図は、既存の雨水排水施設で雨水を排除できないことで生じる浸水区域や浸水深、浸水継続時間を公表することで、浸水リスクをご確認いただき、速やかな避難行動、被害の軽減等を図ることを目的としています。

Q5 雨水出水浸水想定区域図を作成するにあたりどこを対象区域としていますか？

A5 下水道事業計画区域を対象とし東大阪市内のみの降雨を考慮しています。
範囲は雨水出水浸水想定区域図に示しておりますのでご確認ください。

Q6

過去の大雨で浸水している場所が、図面上の浸水区域や浸水深さ、浸水継続時間と異なっていますがなぜですか？

A6

雨の降り方、土地利用状況、雨水排水施設の落ち葉や土砂の堆積等、浸水シュミレーション上考慮できないため、想定される浸水区域や浸水深、浸水継続時間と異なる場合があります。

Q7

着色がないところでは浸水が生じないのでしょうか？

A7

【A6】と同様、図面上溢水していない場所でも浸水する可能性があり、浸水深も深くなる場合がありますので注意してください

Q8

雨水出水浸水想定区域図は河川からの溢水(外水氾濫)は考慮していますか？

A8

考慮していません。内水氾濫のみになります。
確認されたい場合は、「東大阪市防災ハザードマップ(洪水・土砂災害・ため池)」「東大阪市防災ハザードマップ複数の降雨規模による氾濫を想定(想定最大規模を除く)」をご確認ください。

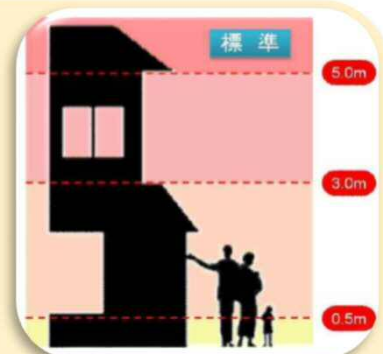
Q9

どれくらいの浸水深が予想されるのですか？

A9

浸水深区分については、
内水浸水想定区域作成マニュアル(案)
に基づいており、浸水深の目安は右図のとおりです。

なお、本市では3mを超える浸水シュミレーションの結果は出ておりません。
また、浸水リスクをご確認いただき、速やかな避難行動、被害の軽減等を図ることを目的としていますため、0.3m未満は1cm程度の浸水も含まれます。



(イメージ図) 内水浸水想定区域作成マニュアル(案)より抜粋

Q10

既に市HP等で公表している区域図等との主な違いは何ですか？

A10

主に降雨の範囲や河川(外水)氾濫の考慮の有無が挙げられます。
詳しくは「(参考資料)既存の各区域図との違いについて」を確認ください。